

件名	令和５年度 第２回 福井市障がい者自立支援協議会 こども部会 報告書	会場	こども療育センター会議室 ※オンライン併用 ※傍聴６名
日時	令和５年 7 月 20 日(木)10:30～12:30		
全 体 会 報告内容 について	(1) 強度行動障害に関する予防的視点で取り組めることはないかといった意見があった。今後、この視点で取り組んでいきたい。 (2) 就労部会主催の就労見学会の取組について、学校から保護者に案内は出来ないかといった意見があった。➡鈴木氏や前田氏からの感触では、進めることは可能とのことなので、内容・方法精査を条件として、次の会議に挙げる。 意見：発達障がいの疑いで担任から紹介を受け受診し、どこへも繋がっていない人もいる。➡一般企業での障害者枠中心とした案内会、就労 A・B の案内会等、障がい状況に合わせた開催検討について、会長が意見を提出する。 ※配布する医療機関については、医師会（小児科医会）へ津田委員を通す。 (3)障がい福祉計画については策定中。案は全大会での確認・検討を経る予定。 意見：地域医療計画との連携をお願いしたい。こども家庭庁の政策関連から、今後の動きは注視要。		
協議事項	1. 就学時の放課後等デイサービス利用に関する WG について（資料 1,2） [会長] ・ 7 月 12 日に第 1 回 WG【就学に伴う放課後等デイサービスの利用が早い者勝ちになっているのではないかという課題感に対するアンケートの確認】を行った。アンケートの中からは早い者勝ちになっているとのものは見えず、早い時期での相談を受けることはあるがだいたい 3-6 か月くらい前に決まってしまうというイメージだった。 ・ 今後の事業所へのアンケート内容としては 〈放デイ事業所へどれくらいの時期で利用への返事をしているのか〉 〈放デイでどのような支援ができるのか⇔放デイでの支援に、必要な療育とのズレがあるのではないか〉 〈放デイとしての支援はあまり必要ではないが、預けるニーズが高かったり相談場所がないため利用しているというケースがないか〉等の追加を検討。 ・ 新しい課題として、児童クラブに障がい特性を持った児童が通うことができないかとの話も挙がったが、3 年生迄といった、利用対象年齢に区切りをつけているところがあり、障害があるという理由で高学年でも利用できると、周囲に障がいがあることを言わないといけない状況になってしまう等の理由があり、利用が難しいとの意見があった。※放デイ利用の児童で、本当は児童クラブなどのほうでもいいのではないかという子が来ているのかは見えてこない状況。		

・第2回目のWGでは、放デイのアンケートを集計して課題感を挙げ、第3回目ではどのような対策ができるのか・児童クラブへの移行を勧めていったほうがいいのか・放デイでしっかり見合った支援をしていく必要があるのか見ていけたらいいと考えている。

[事務局] アンケート内容については、WGから出てきた意見を反映させたものだが、意見があれば、27日迄に、障害福祉課へメールがほしい。8月9日には各事業所に配布できるようにしていきたいと思っている。8月31日を回答締め切りとし、9月中旬の第2回WGを経て第3回部会で報告予定。

[津田氏] アンケート(1)の問い方だが、「理由としては何ですか。その中で1番多いものは？」といった聞き方の方がよりニーズ把握が出来るかと。

[会長] 1番・2番・3番選択といったことは可能か。

[事務局] シンプルな作りだったと思う。(津田氏の意見拝聴)

[渡辺氏] 児童クラブとの絡みについては、どうするのか。

[会長] これは相談支援専門員へのアンケートの中で新たに出てきた課題感なので、3回目に分けてしていく予定。尚、自身としては、自事業所で出来る活動案・支援がどういうものかを聴いてもらえるとと思っている。相談員が求めているサービス像と実際の違いについても見えてくると思っている。

[事務局] 自分の事業所がどんな療育を提供しているかといったところを問うということか。(確認)

[渡辺氏] 厚労省の次の法改正で、放デイの在り方が変わり、発達を促す内容をとった方向性がだされているが、これと乖離しないように、準備しておかないといけないのでは。アンケート内容に、こういったことが質問のなかで反映できないか。結果についても考える機会となるのでは。

[会長] とても重要な視点だと思うが、話がものすごく広がってしまう。相談員だけのアンケートでも広がってしまい、最初の課題感が何だったかわからなくなるところもあった。まずは放デイの申し込みが早い者勝ちになってしまっていないかの実態が知りたい。今回はその背景にはどのようなニーズがあってどうずれがあるのかを知ることが目的としたアンケートとしたい。レスパイトが家族支援のひとつといった話があったが、保護者が希望しているのかも聞いていけるといいかなと思う。アンケート内容の2番がそれに値するか。アンケートの中で見えてきた課題は第3回に話し合っていないといけないとも思う。こども家庭庁になり色々大きく変わる可能性がある。報酬改訂があって放デイや児発の在り方が変わるとなればまた新しい課題として挙げて可能であれば併せて話していかなければならないかもしれないし切り分けて話さなければいけないならそうしなければいけない。まずは今できることを今話していきたい。

[山田氏] アンケートの中に、何を理由として受け入れる優先順位を挙げているのか聞いてほしい。地域重視などであればインクルーシブのことを考えているのだなどの視点でも捉えることができる。正直に「支援しやすい子を優先している」との回答が出てくるかもしれないし、レスパイト優先であったり相談員との関係を優先していたりもあるかもしれない。

2、強度行動障害に関する研修について(資料3)

[事務局：基幹] 予防的な観点で、今できることとして、行滞りや授業に参加できない・クラスに居ることができない児に対して、教員の方が実際に課題だと思っている子等が強度行動障害になり得るということに対し適切な支援とは何かというような観点で進められるといいなという話になった。実際にうまくいったケースも伝えたと話しやすいとのことで部会から津田氏に依頼する講義の中で、うまくいった事例を取り込んでいただく。その後に実際に参加者で事例に対して学校で何ができるのかといった意見交換や話し合いをしてもらうといいのではないかとということで30分のGWをする構成でいる。まずは現場最前線に位置する特別支援コーディネーターを対象とした、10月26日の合同研修会で必要なアナウンスをしたあとに資料3の流れで研修を進めていく予定。8月24日の専門委員会での打ち合わせに吉村会長も参加していくことになっている。

[山本氏] 打ち合わせの時、「教育相談の流れ」について話す枠をもらい、後は特セに戻りコーディネーター対象に話をするというもので出したが、4月の合同研修で全く同じ教育相談の流れについて同じ対象の方に話をしている。これはこのままでいいのか確認したい。尚、この日、自身は別の研修の場にいるので対応は別所員となる。不要であればGWに入れる運用もあるかなと思う。

[津田氏] 4月の研修の後、各学校に持ち帰りどういった展開がされたということ、コーディネーターは知っているが、以降の展開の中での課題の有無を聞くのはどうか。聴いただけのコーディネーターもいるのでは。これをGWの中で話してもらうのもいいのでは。

[鈴木氏] 10月の研修は「つなぐ会」としての位置づけもある。コーディネーターだけでなく、こども園の教員・保育士の参加も声掛けし、含めたグループ割をしている。一昨年あたりから相談支援専門員も入ってという大きな規模になる会なので、どうかなと。

[会長] 園で課題が出た時にはどこに相談しているのか。特別支援教育コーディネーターのような存在は？※1園に一人という回答あり。では、流れは同じと言えるか。※同意あり。では、GWの流れの中で、触れてもらうことは可能か。

[鈴木氏]進め方等については、8月24日の会議の場を有効に使うって検討していきたい。

[会長]役割等については、学校教育課と特セのほうで打ち合わせをお願いします。

[事務局]次回部会は11月までないので、9月の事務局会議で検討した結果を発信していきたい。

[前田氏]講義の内容としてはどういったものになるのか。

[津田氏]学校からの相談をベースに小学校・中学校等をベースにした話になるかと思う。

[前田氏]昨年度も特支校の生徒の話も出ていたように思う。会場的に、一杯だとは聞くが、高校教諭として、特支校の教員にも聞いて貰いたいという想いはある。高校は対象ではないのかもしれないけれど・・・。

[鈴木氏]専門員はすでに入っている。それに何人かプラスする感じか。全館貸し切りにしているので、グループをもっと分割し、会場を分けていけばいける。

[会長]特別支援学校でも特別支援学級でも一般学級でも何も変わらないと思っている。特性を持っていたり持っていなくてもあり得ることではないだろうか。不登校気味の児童で、特性には問題ないが不適応を起こしてしまって学校に全然行けなくなり、属にいう【荒れる】という状態は、強度の仕組みと変わらないと思う。そうであれば特性があってもなくても、どんな子にもなりえる状態ではないか。そう思うと、目的が違って来るかもしれないが、いろんな方が参加できて色々な方が話を共有し、各機関で互いに話ができる場があるといい。

3. 教育と福祉の連携について(第1回部会資料のフロー図参照)

[事務局]福祉側は改めて、連携の流れについて周知していく必要があるとの話であった。それぞれ相談員の集まる場と児発管の集まる場所があるが、どのように話を進めているのか。

[山形氏]7月の相談支援事業者連絡会で、相談員にフロー図の配布を行った。グループごとに話す機会があり、その中では『学校はどれくらいのレベルになると学校教育課に挙げるのか』『学校教育課に挙げた後どうなっているかを、相談員は知っているのかは先生に聞きづらい』などの意見があった。会議で顔は合わせるが、学校教育課の関わりが少なそうであると感じるケースのほうが多い印象との意見もあった。その他、相談員の相談先は障がい福祉課となっているが、たくさん挙げてもいいのかなと相談員は感じている。委託のほうが言いやすいところもあるが、全部委託に回すのがいいのかななどの判断がフロー図を見ても分からないとの意見も出た。質問は全て障がい福祉課としたが、変化はどうかかわからない。

[事務局]相談員からは、地区委託に聞いているというのはあると思うが、行政に「○○のような課題感があると知っておいてほしい」などの共有したい部分があれば挙げてくれるのかと思う。

[会長]何をしてもらえるか分からないから挙げにくい、ということではないかと思う。児発管も現場で起きたことを相談員に話すときは『この人なら、この情報を渡せば有効に使って貰えるだろう』と思うから挙げられるだけで、言っても「わかりました」だけで終わると、こちらは挙げにくくなっていく。挙げて何か変わるのかが分かっていると挙げやすいと思う。「地域の課題感を把握するために挙げてほしい」のであれば、細かいところも挙がってくると思う。

「福祉で伝えていくことなのか教育で伝えていくことを協議したいからそういうケースを全部挙げてほしい」と言われれば、そう動いて貰えると思う。そこは「こういうケースをあげてもらえればこちらはこうできるよ」というものを伝えてほしい。困難だと感じるケースは1人1人違うと思う。行き先が決まっていなくて困難だと挙げられても、福祉で何とかしてもらわないと困るとの回答になるだろうし、困難ケースはこのようなものと事例を挙げてもらえると定着していくと思うが、今はとりあえず困ったら挙げてと伝えていかないと挙がってこないから、そのように伝えて貰うのが一番かと思う。

[事務局]具体的なことについては、持ち帰って検討させてほしい。

[津田氏]うまくいっているケースはどんなふうに動いているのか。

[山形氏]関係機関が増えているケースはうまくいっている印象。

[津田氏]学校と相談員・児発管の関係が太くなっていくと問題が見られないといったところか。

[山形氏]それはあると思う。定期的に顔合わせなどをして細かく連携できる関係性があると、困難さはあまり感じない。ただ、学校とのパイプが細いことは事実で、そのまま時が経つのを待ってしまっただけで誰も入れないまま終わってしまうとか

[津田氏]各学校と相談員の関係のパイプのつながりを学校教育課と障がい福祉課が構築したほうが効果があるのかなと思う。

[鈴木氏]学校教育課と障がい福祉課が出ないと！と思うのは学校の中だけで相談におけるケースが少なく弱いな、といったとき。

[津田氏]フロー図の、学校教育課は学校のみ・障がい福祉課は相談員のみといったものだ、学校は何してくれるの？といった疑問が出るかと。

[会長]このフロー図だけでは分からないことがいっぱいあると思う。困ったときのケースの話になるので、困ったときに相談員とか児発管は誰に相談すればいいかといったら障がい福祉課だという話か。

[山形氏]矢印が下にも向いているからどちらでもいいと思う。私たちは地区委託に行ってから障がい福祉課かなとこの間は話した。ぼんやりした感じで、やってみましょうという感じで話は終わってしまったが。とりあえずやってみてうまくいかなかったらまた障がい福祉課に報告か。

[津田氏]相談して貰っている当事者にとってみると、たらい回しされているような感じで「具体的な解決がない…」となってしまうのかなと。

[会長]課題がある人全てがこのルートを辿るわけではない。関係者が増えると解決に時間はかかるかもしれない。一番は相談員や児童が学校と関わってうまくいくのが一番早いし、本人にとっては一番いいが、これで動かないケースも一定数ある。そもそも教育の視点と福祉の視点のズレがあるから違いが出るし、そのままいくと、もめるのだと思う。でも当事者だけで話していても絶対に解決しない。そうなったら障がい福祉課と学校教育課に入ってもらい、お互いに役割を分けていく必要はある。自身が今まで関わったケースでうまくいったものは役割がはっきりしていた。

[津田氏]うまく動かない要因の一番は何だろうか。

[会長]多分、皆が「誰かがやるだろう…」と思っているからかと。

[津田氏]相談するときにはケースワーカーが同席するかという話もしてみたんだけど、「えっ!きいてくれるの?」といった反応が返る。

[鈴木氏] 保護者の前で、関係性が出来ていない雰囲気を醸し出す職員が一定いる。どちらの立場もいったん受け止め、その課題感を挙げて貰い、これちょっと遅いなといったケースを挙げて貰ったほうが比較的うまくいくかと。

[津田氏]電話してみた時の反応がすごく悪いともきく。具体的なことまで言わないといけないのかも。

[渡辺氏]今までの課題として、相談員から学校教育課や障がい福祉課に挙がってきたケースが逆にそれ程問題じゃなかった・少なかったから、学校・相談員間で揉めたりしたときに介入していった結果、こういう仕組みにしようとなったのではないかと理解している。相談員が困ったときに障がい福祉課にはいえるが、担任教員が困ったとき、学校教育課に言えるか、誰かに相談してからでないと言えないのか、その仕組みが繋がると行き来がだいぶ変わってくると思う。

[鈴木氏]学校としてちゃんと皆が把握出来ているかということ、主任から（担任から）管理職に報告が行き難しいとなったケースにコーディネーターが入っていて、さらに入って貰うことになったケースや、保護者が電話をかけてきたとか、福祉とのやり取りの中で難しい部分があると、会議に学校教育課に入って貰おうかといった対応になり、中立的な立場で入る。

	<p>[会長]なんで時間がかかるのかといった話から、出来ることを中で考える時間が多ければ多いほど、多分そうなのといったこと。</p> <p>[山形氏]自分たちも誰を窓口にしたらいいのかすごく考える。担任だとそこで止まってしまうし、だったら教頭に相談員として存在を知ってもらうほうがスムーズなのかなと思ったりした。</p> <p>[鈴木氏]まずは絶対管理職（教頭）。学校によっては窓口が誰かとなったときに特コとなるか、教頭となるかは実情に任せている。年度初めに動きがわかるものがあれば、それを基に、管理職・コーディネーターが担任に降ろし、職員会議の中で周知する。担任に書面を送ってもらっても、担任または主任のところでは止まってしまうことは留意してほしい。しないといけないと思っていないところはあるので、経過については、何か文書のようなものがあるといい。</p> <p>[津田氏]なぜ、いらないと思うのか、今迄の経過をなぜ知ろうとしないのか。次の再診日を伝えているが、何にも動きがない…。</p> <p>[鈴木氏]病院の診療内容を学校が直接聞くことは憚られるというか、保護者を通じてじゃないとだめ、となっている。</p> <p>[津田氏]こちらから、学校に知らせて下さいと言っても、あまり返ってこない。</p> <p>[会長]療育センターではしていても他院ではして貰えない可能性もあるのか。浸透していない部分もあると思う。</p> <p>[津田氏]浸透していないときに、それを「もっと返してください」になるのか、「返ってこなくてもいいわ」になるのかでは違うと思う。</p> <p>[会長]学校も情報があつたら欲しいと思う。そこらへんは児発の問題もある。伝えていないこともあると思う。学校にこちらから状況や様子を伝えることもできる。こういうところに取り組んでいるので、学校でも様子を見てくれませんかということを伝えていくことはできる。</p> <p>[鈴木氏]モニタリングに同席して、情報を聴く場合もあるし…。</p> <p>[山形氏]それがタイムリーかどうかわからない。私たちは児発管の方をお願いしたいと正直思う。</p> <p>[山田氏]児発管が普段から送迎などの際に担任の先生と話す時に、課題だと感じることがあれば「相談員に挙げておきます」ということはある。タイムリーな情報を持っているのは事業所と学校なのかなと思う。熱が熱いうちに、話を投げかけるのは誰か、というところでは児発管の役割なのかなと思う。</p> <p>[鈴木氏]学校としては、相談員さんが窓口という意識がある。児発管がいても、誰かわからないが『送迎の方』という認識かと思う。毎日顔を合わせていても事業所の方という捉え方となると、そこに相談というよりは、『じゃあ一回みんなと話して情報共有しましょう』の窓口は相談員、と自身もアナウンスして</p>
--	---

	<p>いた。対応スタッフさんが毎日変わるから、学校側も誰が誰かわからないところもあるかも。</p> <p>[山田氏]相談員への流れが浸透していない場合もある。相談員が誰なのか聞かれることが多い。保護者も半年に1回しか会わないから、学校や相談員に言えないため、毎日顔を合わせ、話を聞く中で、結局こちらに言ってくる。<u>相談員に言っておきますよ、と児発管が話の間に入ることが多い。</u></p> <p>[山形氏]教員とこちらでは、動く時間帯が違ってくる。学校だと夕方、こちらは日中。連絡が取りにくいので、メールアドレスを交換してこれを利用すればすごく早いと思う。※鈴木氏：流れの確認</p> <p>[事務局]理想の流れ・関係性の下で動いている児発管の方・相談員の方教員の方の全員が知らないというのが問題なのかなと思っていて、それぞれの連絡会・研究会などで好事例などを紹介して広めていけたら解決していく部分もあるのかもしれないと感じたが、いかがか。</p> <p>[津田氏]どうやって進めていくかについて、一応進めていくのは相談員という形だが、現実問題としてケースを抱えすぎていて個別に問題に取り組むには、相談員として課題があるんだろうと思う。医療としてはケース会議の必要性を感じて学校に返しているが、担任は担任でどう動いていいかわからない、としているうちに月日が過ぎ、「どうなったの？」になる。そこをいかにスムーズに動いていくか。</p> <p>[鈴木氏]手続きを見える化しないといけな。</p> <p>[会長]仕組みはあると思うが、うまく伝えているかについては検証が必要。今は困ったときは福祉は障害福祉課、学校は学校教育課という流れだけ頭の中に入れておいてもらって、それがどう動くのかというのは課題感だと思うし、そこで課題が出たらまた伝えて貰えたらと思う。</p> <p>[津田氏]学校の相談は、特セが絡むのか。どっちへ行けばいいんだろうと悩むと聞く。特セは特セで受けると返ってくるようだ。</p> <p>[山本氏]特セの相談には学校から申請書を出してもらおうといった手続きがある。保護者から申請書を出しても、学校教育課を通すことになる。まずは担任に相談してほしい。申請を受けたら、まずは学校を訪問し、手立てを考える。</p> <p>[会長]福井市の小中学校はこのような流れとなっているが、もし特別支援学校とトラブルになって支援がうまく進まなくなったような場合はどうか。</p> <p>[前田氏]今のところ、特別支援学校からの相談は来っていない。高校教育課は学校に確認をしていかないといけなないので、とりあえず、福井市の障がい福祉課から県高校教育課に「いつ・だれが・どんな発言をして・どういうところが困っているか」を具体的に伝えてほしい。責められてる感にならないようにしながら、どう伝えていくかが大切。</p>
--	--

[会長]1枚物で伝えられる書式があると楽かもしれない。

[事務局]高校教育課に、そういった様式があるのか。

[前田氏]特にない。

[鈴木氏]電話で長い時間聞くことも多い。いったん聞いて又聞き直すことも。

[事務局]苦情受付様式のようなものを渡すということでもいいかもしれない。足りないところを電話で話すとか。

[会長]自分たちで本当に解決できる方法はないのかをちゃんと考えてから課題としてあげることは絶対必要。自分たちは何が出来るのかを考える際、凝り固まった考えを持つ人がいたら動かなくなってしまう。とりあえず共有しようとするのは福祉の現場には多いと思う。多すぎて、どれを挙げていいのかわからない場合は、部会とか相談ミーティングで精査すればいい。苦情として上って来るのでは、何の意味もない。

[前田氏]課題が発生した場合にはそれぞれの所管のところに相談するのはいいと思うが、それぞれの学校のところで取り崩してしまうのではなく、フロー図でいう右側にある関係者で揉んでから、であるべき。どこまで揉むかはむずかしいところだが、大事なことは、どうしてこういったことが起きたのかといった課題の検討で、場合によっては<どこの誰とどこの誰が>というのはいらないと思う。

[会長]もうちょっと話を詰めていけるといい。ワーキングでも。自分が関わった事例でいうと、親御さんは就労先に選んだところがあるけど進路指導担当の先生は【そんなところは行けないからB型事業所にいかなければいけない。だからB型事業所の実習計画を作ってもらえないか】といわれたケース。自分たちは【じゃあ自分たちが責任をもつから実習に行かせてほしい】と伝えたが【子供たちの刺激になるから勝手なことはやめてほしい】と言われた。これに関しては、そんなものなのか・本人は行きたいと思ったけど行けないものなのだと自分は感じた。かちんときて思ったことを伝えてしまった時がある。ワーキングをするなら、事務局と話してまたメンバー招集させていただく。

[事務局]時間がないから、ワーキングという進め方について、「皆さんが話し合いたいと思っているかもしれないので、決を採ることを提案する。

[会長]今話した就労の話からもうちょっと派生した、どうやって挙げていくのかといったところについて、また部会で話をしていくかワーキングを作っていくのか挙手で決を採りたい。

→部会で話し合っていく ほうへ挙手多数。

[事務局]部下の期日はあくまでも案なので、変更は可能。。

[鈴木氏]10月26日までにやっておくと、好事例の話等に生かせるかも。

	<p>[事務局]部会長と事務局で、話し合い、連絡させてほしい。</p> <p>4. 支援が必要な児童に関するハンドブックについて(資料 4)</p> <p>[事務局]チラシを作製した。意見を集約するフォームを設けているが、ほかのところから当事者の声は挙げられるのかとの話があった。内容のブラッシュアップであったり、当事者・関係機関の、意見の集約をどのように反映していくか、今後どういった流れで行っていくか確認していきたい。第 3 回の部会で意見が挙がってきているのか、第 3 回で話をしてそのうえで修正をする必要があればする。修正する場合は、4 回目の部会で案を提示して承認を得たうえで HP 上にアップしていくという流れでよいのか。</p> <p>[鈴木氏]これから、どんどん変わっていくと思うので、毎年この時期にこれを変えていく、といった定期的ブラッシュアップがあったほうがいいかなと思う。</p> <p>[事務局]報酬改定もあって、今年度中に変更できるものと年度明けて大きく変えていくようなものが出てくると思うので、年に 1 回出来るかなといったところ。適宜、必要性に応じて、していけばいいかと思うが、フォームに時期問わず、出してもらった意見を基に、すぐ対応したことがいいこと・部会を通して対応するふうにして事に分けて進めたいと思うがいかがか。</p> <p>[津田氏]2023 年度版、2024 年度版といったふうに、年度 4 月の時点での内容にしていったほうが良いのでは。</p> <p>[事務局]ハンドブックを改訂するときは、部会に諮ったほうが良いか。期限を決めて、修正部分の指摘・助言を得、こちらの業務がしやすいように進めていきたいと思うので理解を求めたい。</p> <p>5. その他</p> <p>地域課題は特に出てこなかったが、話の中で出てきた大切な視点等について、事務局と話をし、改めて、報告させてもらう。</p>
	<p>次回予定については、メールで改めて報告予定。</p>